

朝 礼 拜 順 序 (午 前 10 時 半)

前	奏		
開	會 招 詞		司式 熊田雄二牧師
*	賛 美 歌	3 力の主をほめたたえまつれ	奏楽 熊田姉妹
*	開 會 祈 禱		
	罪 の 告 白	祈禱書 2	
	罪の赦しの宣言		
	十 戒	祈禱書 4	
*	賛 美 歌	72 心を高く上げよ	
	公 同 の 祈 禱	祈禱書 34 日本キリスト改革派教会創立記念日	
献	金	(黒) (赤) 日本キリスト改革派教会創立記念日 70	
<u>毎週の礼拝献金については、会堂での礼拝再開時に、まとめてお捧げください。</u>			
毎月の教会献金(月定)についても、会堂での礼拝再開時に、まとめてお捧げください。			
イースター献金も覚えてくださいますように(予算 40 万円)。			
	聖 書 朗 読	テモテへの手紙二 3 章 10~17 節 (新約 3 9 4 頁)	
	説 教 ・ 祈 禱	聖書⑧「聖書翻訳と世界宣教」	熊田牧師
*	賛 美 歌	83 主の宣教命令	
*	主 の 祈 り	祈禱書 1	
*	頌 栄	63 あめつちこぞりて	
*	祝 禱		
	後 奏		
	報 告		長老

○ 本日 ● 10:00 小会祈禱会：ネット

○ 次週 ● 10:00 小会祈禱会：ネット

● 小会・執事会 午後 1 時半

※ 200円の昼食は9月末までありません(感染拡大防止および夏季:執事会)

聖書に関する信仰の宣言 八 翻訳聖書

(ウエストミンスター信仰告白本文)

(昔の神の民の国語であった)ヘブル語の旧約聖書と、(しるされた時、最も一般的に諸国民に知られていた)ギリシア語の新約聖書とは、神によって直接靈感され、神の独特な配慮と摂理によって、あらゆる時代に純粹に保たれたので、確実である。それで、すべての宗教論争において、教会は最終的にはこれらに訴えるべきである。

しかし、これらの言語は、聖書に近づく権利と興味をもち、神を恐れつつ聖書を読みまた探究するよう命じられているすべての神の民に知られてはいないから、神のみ言葉がすべての者に豊かに内住して、彼らがみ心にかなう方法で神を礼拝し、聖書の与える忍耐と慰めによって希望をもつために、聖書は、それが接するあらゆる国民の言語に翻訳されなければならない。

宣言本文)

キリスト者には、聖書に近づく多くの機会が与えられなければならない。そのために、教会は七十人訳と呼ばれる旧約の最も古いギリシア語訳を自己の聖書として採用した。その他、シリア語訳、ラテン語訳など各種の古代語訳を産み出し、とりわけいわゆるウルガタ訳を広く長い期間にわたって提供し、宗教改革時代に至っては、正確で力強い多くの各国語訳を聖書原典から作成するに至った。

教会は、神のみ言葉を委託されたものとして、聖書の翻訳・出版・頒布について意を用いなければならない。聖書は、礼拝・研究・教育・伝道など、その使用目的に応じて翻訳され、適切なものが選択され、使用されなければならない。責任をもって作成された翻訳聖書において、私たちは、確実十分に、神のみ言葉に接することができるのである。

神は種々の翻訳聖書を用いて、御自身のみ言葉をさまざまな歴史的文化的状況の中で語ってこられたから、今日、激動する世界のあらゆる形の間人文化の中でも、この聖書を用いて語り続けられると、私たちは信じる。すなわち、聖霊の啓明に寄り頼み、進んで神のみ言葉に聞き従う用意をもって、聖書が注意深く読まれ、また、み言葉の教師が聖書を正しく力強く熱心に説教し、会衆が信仰と愛と従順をもってこれに聞きいるところでは、神のみ言葉が今日も神の民に向かって語られているのである。.....

日本キリスト改革派教会 創立宣言より冒頭の部分 改革派信仰観

悔い改め

終戦後すでに九カ月、敗戦祖国の再建は種々の構想と方途によって計られつつあるが、聖書に「主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなしい。主が町を守られるのでなければ、守る者のさめているのはむなしい」とあるのはまことである。宇宙と人類を支配したもう、全知全能にして聖なる愛の神を信じるのでなければ、一国たりともよく建てられ、よく保たれる道理はない。

このたびの敗戦に当たって、宗教の自由は、はなはだしく圧迫され、われらの教会もゆがめられ、真理は大胆に主張されなかった。我らは、これを神の御前に恥じ、国のために憂う。しかし、歴史を支配したもう神の摂理により、宗教の自由は、ついに、敗戦を通して祖国日本にもたらされるにいたった。

新たな決意

今後、より良き日本の建設のために、我らは、誠心誠意、歴史を支配しておられる、全能にして最善をなしたもう神の御心にそう者となるべきである。その戒めにしたがって、神を敬い、隣人を愛し、単に精神文化面においてだけでなく、「飲むにも食べるにも、何事をなすにも、すべて神の栄光をあらわすこと」をもって、最高の目的とすべきである。この有神の人生観ないし世界観こそ、新日本建設の唯一の確かな基礎であることは、日本キリスト改革派教会の主張の第一点であって、我らの熱心ここにあり。

ただし、真に正しい宗教のみが国家の基い、文化の根底であるという主張は、国政や文化活動自体を宗教の支配下に置くべきであるとする、教権主義思想を意味するものではない。とくに、地上政権と宗教との関係について、我らは、政教分離の原則をもって、近代国家の知恵とするとともに、聖書の教えにもかなうことを信じるがゆえに、信教の自由、教会の自律性を尊重する者である。

200426 II テモ 3:10~17 聖書論⑧ 聖書翻訳と世界宣教 ソ 8 3

I 今朝は聖書宣言 8 節

これで 役員誓約事項の1「あなたは、旧・新約聖書が神のことばであり、信仰と生活の唯一の誤りなき規準であると信じますか。」を終了することになります。振り返ってみると、第二テモテ 3 章を用いることが多いことに気が付きます。それは、やはり、「靈感」という言葉がここにあることによるからでしょう。今使っている新共同訳聖書では「神の霊の導き」と訳している 16 節です。靈感論争が激しかった頃の口語訳聖書では「靈感」となっていました。

さて、宣言 8 節は翻訳聖書についてですが、ゴシックのウエストミンスター信仰告白本文のところは、論争の際にはヘブル語旧約聖書とギリシャ語新約聖書ですること、世界宣教のためには各国語に翻訳することの 2 点を語っていません。

(ウエストミンスター信仰告白本文)

(昔の神の民の国語であった)ヘブル語の旧約聖書と、(しるされた時、最も一般的に諸国民に知られていた)ギリシア語の新約聖書とは、神によって直接靈感され、神の独特な配慮と摂理によって、あらゆる時代に純粹に保たれたので、確実である。それで、すべての宗教論争において、教会は最終的にはこれらに訴えるべきである。

しかし、これらの言語は、聖書に近づく権利と興味をもち、神を恐れつつ聖書を読みまた探究するよう命じられているすべての神の民に知られてはいないから、神のみ言葉がすべての者に豊かに内住して、彼らがみ心にかなう方法で神を礼拝し、聖書の与える忍耐と慰めによって希望をもつために、聖書は、それが接するあらゆる国民の言語に翻訳されなければならない。

そこで、聖書は日本語にも翻訳されたのですが、クリスチャン人口が少ない割に日本語訳聖書が多いことに、不思議な感動を覚えます。

- ① 文語訳、口語訳、新改訳、新共同訳などの礼拝用、
- ② リヴィングバイブル、ドラマ聖書などの伝道用、
- ③ 研究者個人の訳、文法解説付きなどの研究用

と、実に多彩です。

これらは、聖書への情熱と伝道熱心が生み出したものです。日本だけでなく、各国でも起こっています。ローマ・カトリック教会も、長い間ラテン語ウルガタ訳聖書を公的聖書としてきましたが、1965年第二バチカン公会議以降、公的に各国語でミサがささげられることになり、聖書翻訳と説教が大切な位置を占めることになりました。

実に聖書翻訳の歴史は、世界宣教の歴史でもあります。20年前の「2000年東京大聖書展」では、ヨハネ福音書が「始まりに賢き者ござる」で始まる最初の日本語訳聖書を見ることができました。宣教師の情熱を思わずにはられません。

II 宣言8節の宣言文

(宣言本文)キリスト者には、聖書に近づく多くの機会が与えられなければならない。そのために、教会は七十人訳と呼ばれる旧約の最も古いギリシア語訳を自己の聖書として採用した。その他、シリア語訳、ラテン語訳など各種の古代語訳を産み出し、とりわけいわゆるウルガタ訳を広く長い期間にわたって提供し、宗教改革時代に至っては、正確で力強い多くの各国語訳を聖書原典から作成するに至った。

教会は、神のみ言葉を委託されたものとして、聖書の翻訳・出版・頒布について意を用いなければならない。聖書は、礼拝・研究・教育・伝道など、その使用目的に応じて翻訳され、適切なものが選択され、使用されなければならない。責任をもって作成された翻訳聖書において、私たちは、確実十分に、神のみ言葉に接することができるのである。

神は種々の翻訳聖書を用いて、御自身のみ言葉をさまざまな歴史的文化的状況の中で語ってこられたから、今日、激動する世界のあらゆる形の人間文化の中でも、この聖書を用いて語り続けられると、私たちは信じる。すなわち、聖

霊の啓明に寄り頼み、進んで神のみ言葉に聞き従う用意をもって、聖書が注意深く読まれ、また、み言葉の教師が聖書を正しく力強く熱心に説教し、会衆が信仰と愛と従順をもってこれに聞きいるところでは、神のみ言葉が今日も神の民に向かって語られているのである。

ここでは、改めて、原典においては誤りがないと主張することは意味が無いことを教えています。ヘブル語旧約聖書とギリシャ語新約聖書の原典は現存しません。

また、原典とはどの時点のものを言うのかも明らかにはできません。旧約聖書の場合、口伝→文書化→編集のどの過程のものを原典と言うのか、分かりません。新約聖書の場合、存在しない直筆原本が原典なのか、古代教会が会議で、福音書や弟子達の手紙 27 巻を正典(カノン)としたものを言うのか、分かりません。

結局、原典靈感説は、聖書には誤りがあると攻撃された時の逃げ場にしかありませんでした。むしろ原典靈感説は、翻訳聖書を軽視する心のスキを生み出したのです。

宣言は、翻訳聖書の确实性と有効性を強化しています。原典靈感説の唯一と言ってよい聖書箇所は第二テモテ 3 章 16 節ですが、「神の霊の導き」、口語訳「神の靈感によって」のギリシャ語「セオ・プニユーストス」を、神経質な原典靈感主義者は、念入りに調べます。セオは神、プニユーストスは霊、風、息です。従って、神の息がアダムの鼻に吹き込まれたことを思い出させます。また、主イエスがニコデモに「風は思いのままに吹く。霊から生まれた者も皆そのとおりである」と言われたことを思い出させます。

いずれも、人間が神の霊を吹き込まれて生きた者となる、ということに意味があります。だから、「人を教え、戒め、・・・」という働きと共に意味がありません。原典靈感主義者は、「聖書はすべて神の霊の導きのもとに書かれた」という書物だけに神経を集中させるのです。

「人を教え、戒め、・・・」は前の節の「この書物はキリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵をあなたに与えることができる」ということを、別の表現で言ったものです。つまり、聖書の目的や働きとの関係なしに、ただ聖書は靈感された神の言葉だと主張することは、パウロの意図や目的から外れているのです。

パウロの意図や目的は、聖書は本棚に積んでおいても靈感された神の言葉だということではありません。もちろん、積んどくだけでも神の言葉です。パウロの意図は、「テモテよ、あなたは幼い日から聖書に親しんできた、それを学んで確信していることから離れてはいけない」ということです。

その際 14 節「あなたは、それをだれから学んだかを知っている」ということが、聖書の靈感を議論する時に、ものすごく大事です。そこで、1 章 3～5 節、「祖母ロイスと母エウニケ」に注目しなくてはなりません。この名前は、聖書に出てくるユダヤ人の名前には見当たりません。ギリシャ人かローマ人の名前です。

つまり、この時点ではまだ旧約聖書しかないのですが、祖母・母・テモテが

親しんできた聖書とは、ユダヤ人が使うヘブライ語聖書ではないのです。当時の地中海世界の国際語＝ギリシャ語に翻訳された旧約聖書です。パウロが伝道した地中海世界の人々は、ヘブライ語を使えないユダヤ人も含めて、皆、この七十人訳と言われるギリシャ語聖書を使っていたのです。

Ⅲ 靈感の概念を広く

確かに、ヘブライ語・ギリシャ語の原本に近いものを研究する作業は必要です。カトリックとプロテスタントが共同で聖書を翻訳しましょうという時、ヘブライ語旧約聖書とギリシャ語新約聖書の、原典に近い写本テキストを決定する作業が必要になるからです。

しかし、それは、教会の教義論争のために大事であるという以上に、礼拝と信徒の信仰生活のために大事なのです。つまり、より確かな翻訳聖書を作るために重要なのです。

実際に今ここにいる信徒は、牧師も含めて、ヘブライ語やギリシャ語の聖書で信仰が起こったのではありません。日本語、韓国語、中国語、タイ語、英語などの翻訳聖書によります。すなわち、それは、テモテや祖母ロイス、母エウニケが、翻訳聖書によって信仰が起こされたのと同じです。聖書が分かる言葉で、聖霊が信仰を起こしてくださることの方がもっと大事な靈感なのです。

聖書は積んでおいても誤りなき神の言葉です。しかし、積んでおくだけで靈感の作用が起こるのだったら、ヘブライ語やギリシャ語の聖書を置いておいた方がよいでしょう。より強いオーラが発生するでしょうから。しかし、聖書を読まない人には、聖霊は働かないのです。聖書の話をお聴かない人の魂には、聖霊は働かないのです。

幼い時からテモテが祖母や母から聞いてきた聖書は、おもに旧約聖書物語でしょう。自分で読めるようになるまでは、繰り返し聖書物語を聞いてきたのでしょう。パウロが強調している聖書の靈感は、むしろ、そのところなのです。ならば、私たちが今している教会学校や複数礼拝の活動はものすごく大事です。家でお休みのベッドで聖書物語を聞かせることはものすごく大事なのです。

Ⅳ 日本キリスト改革派教会創立宣言 冒頭部分朗読（週報裏面） 祈り